

【表紙】

【提出書類】	有価証券届出書の訂正届出書
【提出先】	関東財務局長殿
【提出日】	平成28年7月8日提出
【発行者名】	アムンディ・ジャパン株式会社
【代表者の役職氏名】	代表取締役 ジュリアン・フォンテーヌ
【本店の所在の場所】	東京都千代田区内幸町一丁目2番2号
【事務連絡者氏名】	横田 陽子
【電話番号】	03-3593-5928
【届出の対象とした募集 （売出）内国投資信託受益 証券に係るファンドの名称】	アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース） <年2回決算型> アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース） <年2回決算型>
【届出の対象とした募集 （売出）内国投資信託受益 証券の金額】	当初募集額 各ファンドにつき 上限 500億円 継続募集額 各ファンドにつき 上限 8,000億円
【縦覧に供する場所】	該当事項はありません。

1. 【有価証券届出書の訂正届出書の提出理由】

平成28年7月8日付にて有価証券報告書を提出いたしましたので、平成27年12月24日付にて提出いたしました有価証券届出書（平成28年3月3日付にて提出いたしました訂正有価証券届出書により訂正済み。以下「原届出書」といいます）の関係情報を新たな情報に訂正し、また記載事項の一部に訂正もしくは追加を行うため、本訂正届出書を提出するものであります。

税制改正その他に伴う訂正を行います。

2. 【訂正事項】

原届出書の内容は本訂正届出書の内容に訂正されます。

下線部_____は、訂正もしくは追加個所を示します。

第二部【ファンド情報】

第1【ファンドの状況】

1【ファンドの性格】

(1)【ファンドの目的及び基本的性格】

ファンドの特色

追加的記載事項

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 1 ファンドの性格 (1) ファンドの目的及び基本的性格 ファンドの特色 追加的記載事項」につきましては全文を削除します。

(2)【ファンドの沿革】

<訂正前>

平成28年1月14日 投資信託契約締結、設定・運用開始（予定）

<訂正後>

平成28年1月14日 投資信託契約締結、設定・運用開始

(3)【ファンドの仕組み】

《アムンディ概要》

<訂正前>

アムンディは、フランスの農業系金融機関の中央機関として1894年に設立されたユニバーサルバンク、クレディ・アグリコル・グループの資産運用部門です。アムンディの運用資産額は9,540億ユーロ（約131兆円、1ユーロ＝137.23円で換算。2015年6月末現在）の運用資産額を有する世界トップクラスの運用会社の1つです。世界30カ国以上の主要な投資地域の中心に拠点をもち、すべてのアセットクラスや主要通貨を網羅する広範囲な運用商品を提供しています。

<訂正後>

アムンディは、フランスの農業系金融機関の中央機関として1894年に設立されたユニバーサルバンク、クレディ・アグリコル・グループの資産運用部門です。アムンディの運用資産額は9,850億ユーロ（約130兆円、1ユーロ＝131.77円で換算）2015年12月末現在）の運用資産額を有する世界トップクラスの運用会社の1つです。世界30カ国以上の主要な投資地域の中心に拠点をもち、すべてのアセットクラスや主要通貨を網羅する広範囲な運用商品を提供しています。

2【投資方針】

(1)【投資方針】

各ファンドが投資対象とする投資信託の概要

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 2 投資方針 (1) 投資方針 各ファンドが投資対象とする投資信託の概要」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

■各ファンドが投資対象とする投資信託の概要

外国籍投資信託													
ファンド名	<ul style="list-style-type: none"> ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I5シェアクラス、米ドル) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I3シェアクラス、豪ドル) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルレアル) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I13シェアクラス、メキシコペソ) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I12シェアクラス、トルコリラ) ■ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円) 												
<運用の基本方針>													
ファンドの形態	ルクセンブルク籍会社型投資信託(円建)												
ファンドの特色	欧州のハイイールド債を主要投資対象とし、インカムゲインの確保に加え、中長期的なキャピタルゲインの獲得を目指して運用を行います。												
投資方針	<p>1) 投資対象</p> <p>①欧州のハイイールド債を主要投資対象とします。</p> <p>②外国為替予約取引、為替先渡取引、直物為替先渡取引等を活用します。</p> <p>2) 投資態度</p> <p>①原則として、純資産総額の4分の3以上をハイイールド債に投資します。</p> <p>②原則として、欧州のハイイールド債を中心に投資します。</p> <p>③原則として、純資産総額の4分の3以上をユーロ建の資産に投資します。ユーロ建以外の資産への投資は純資産総額の4分の1を上限とします。</p> <p>④ユーロ建以外の資産に投資する場合、原則として対ユーロで為替取引を行います。</p> <p>⑤投資適格債に投資する場合がありますが、その投資割合は原則として純資産総額の20%以内とします。</p> <p>⑥「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ)」は、実質的にユーロ建資産を保有します。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I5シェアクラス、米ドル)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対米ドルで為替取引を行います。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I3シェアクラス、豪ドル)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対豪ドルで為替取引を行います。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルレアル)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対ブラジルレアルで為替取引を行います。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対資源国通貨バスケットで為替取引を行います。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I13シェアクラス、メキシコペソ)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対メキシコペソで為替取引を行います。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I12シェアクラス、トルコリラ)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対トルコリラで為替取引を行います。「ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円)」は、実質的なユーロ建資産を、原則として対円での為替ヘッジを行います。</p> <p>⑦資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。</p>												
主な投資制限	<p>①格付が付与されていない債券への投資割合は、原則として純資産総額の10%以内とします。</p> <p>②同一発行体の発行する債券への投資割合は、原則として純資産総額の5%以内とします。ただし、欧州諸国の国債等への投資割合は、原則として純資産総額の20%以内とします。</p>												
収益分配方針	原則として、毎月分配を行う方針です。												
設定日	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ)</td> <td rowspan="2">2011年1月31日</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルレアル)</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨)</td> <td rowspan="2">2011年10月27日</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円)</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I3シェアクラス、豪ドル)</td> <td rowspan="2">2014年1月14日</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I12シェアクラス、トルコリラ)</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I5シェアクラス、米ドル)</td> <td rowspan="2">2014年1月14日</td> </tr> <tr> <td>ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I13シェアクラス、メキシコペソ)</td> </tr> </tbody> </table>	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ)	2011年1月31日	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルレアル)	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨)	2011年10月27日	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円)	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I3シェアクラス、豪ドル)	2014年1月14日	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I12シェアクラス、トルコリラ)	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I5シェアクラス、米ドル)	2014年1月14日	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I13シェアクラス、メキシコペソ)
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ)	2011年1月31日												
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルレアル)													
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨)	2011年10月27日												
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円)													
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I3シェアクラス、豪ドル)	2014年1月14日												
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I12シェアクラス、トルコリラ)													
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I5シェアクラス、米ドル)	2014年1月14日												
ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I13シェアクラス、メキシコペソ)													
<主な関係法人>													
投資顧問会社	アムンディ・ジャパン株式会社	<管理報酬等>											
副投資顧問会社	アムンディ アセットマネジメント	信託報酬	純資産総額に対し年率0.67%										
管理会社	アムンディルクセンブルク・エス・エー	信託財産留保額	0.1%										
保管銀行・管理事務代行会社	CACEIS-バンク・ルクセンブルク・エス・エー	申込手数料	なし										
		その他の費用	ルクセンブルクの年次税(年率0.01%)の他、有価証券売買委託手数料等がかかります。										

*上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

－「ストラクチャル-欧州ハイ・イールド・ボンド」の運用の体制等について－

「ストラクチャル-欧州ハイ・イールド・ボンド」の債券の運用は副投資顧問会社であるアムンディ アセットマネジメントが行います。

■アムンディ概要

- アムンディは、フランスの農業系金融機関の中央機関として1894年に設立されたユニバーサルバンク、クレディ・アグリコルグループの資産運用部門です。アムンディの運用資産額は9,850億ユーロ（約130兆円、1ユーロ＝131.77円で換算。2015年12月末現在）にのぼり、世界トップクラスの運用会社の1つです。世界30カ国以上の主要な投資地域の中心に拠点を持ち、すべてのアセットクラスや主要通貨を網羅する広範囲な運用商品を提供しています。
- 欧州債券運用部門の運用資産は4,920億ユーロ（約65兆円、1ユーロ＝131.77円で換算。2015年12月末現在）にのぼります。欧州債券運用部門のハイイールド債券運用チームは、欧州ハイイールド債券市場黎明期である2001年6月からファンドの運用を開始しており、長い運用実績を有します。ファンドの運用にあたっては、徹底したボトムアップ・アプローチによる個別銘柄選定を重視しています。また、銘柄選定にあたっては、社内リサーチを重視するとともに、アムンディ アセットマネジメントの親会社であるフランス大手銀行のクレディ・アグリコル エス・エーの経済調査部とも連携しています。

■運用プロセス



*運用プロセスは本書作成日現在のものであり、今後変更となる場合があります。

■リスク管理

- 運用上のリスク管理
運用チームは、中間管理部とともに、多数のツールを活用し、市場データやポートフォリオ分析、実際のポートフォリオのポジション流動性、パフォーマンスのモニタリング、リスク試算等を行います。モニタリングだけでなく、ポートフォリオ対規約規制、顧客の指定規約や社内規程の遵守状況の確認を行います。
- 専門部署によるリスク管理
リスク・パフォーマンス管理チームは、社内規制のモニタリングとして、市場リスク、発行体信用リスクおよび運用監査の3項目のチェックを行います。ファンド・マネージャーとは別のレポートラインを持ち、投資決定での独立性が確保されます。また、コンプライアンス・チームは社内内外の法令遵守等についてのチェックを行います。
- 外部監査等
クレディ・アグリコル エス・エー（アムンディ アセットマネジメントの母体）およびアムンディ アセットマネジメントの独立した監査チームが、適切な業務遂行とリスク管理システムの適切性の調査を随時行います。

国内籍投資信託	
ファンド名	CAマネープールファンド(適格機関投資家専用)
＜運用の基本方針＞	
ファンドの形態	日本籍契約型投資信託(円建)
ファンドの特色	主として本邦通貨表示の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指して運用を行うとともに、あわせてコール・ローンなどで運用を行うことで流動性の確保を図ります。
投資方針	1) 投資対象 本邦通貨表示の短期公社債を主要投資対象とします。 2) 投資態度 ①主として、本邦通貨表示の短期公社債に投資し、安定した収益の確保を目指して運用を行うとともに、あわせてコール・ローンなどで運用を行うことで流動性の確保を図ります。 ②資金動向、市況動向の急激な変化が生じたとき等ならびに投資信託財産の規模によっては、上記の運用ができない場合があります。
主な投資制限	外貨建資産への投資は行いません。
設定日	2007年11月7日
＜主な関係法人＞	
委託会社	アムンディ・ジャパン株式会社
受託会社	株式会社りそな銀行
＜管理報酬等＞	
信託報酬	年率0.35%(税抜)以内
申込手数料	なし

*上記内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更されることがあります。

◆資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

3【投資リスク】

（参考情報）

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 3 投資リスク（参考情報）」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

(参考情報)

①ファンドの年間騰落率および分配金再投資基準価額の推移

【豪ドルコース(年2回決算型)】



【ブラジルレアルコース(年2回決算型)】



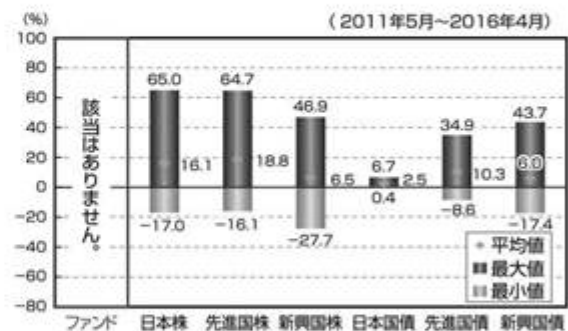
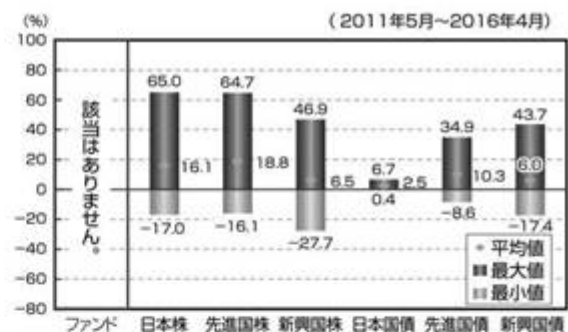
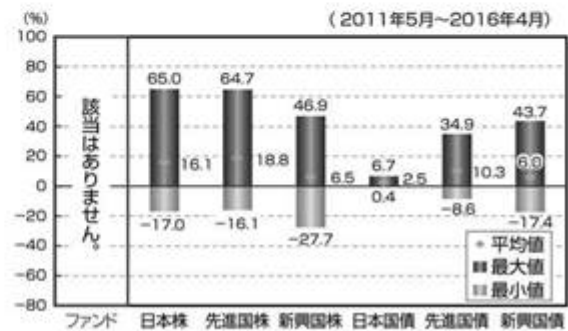
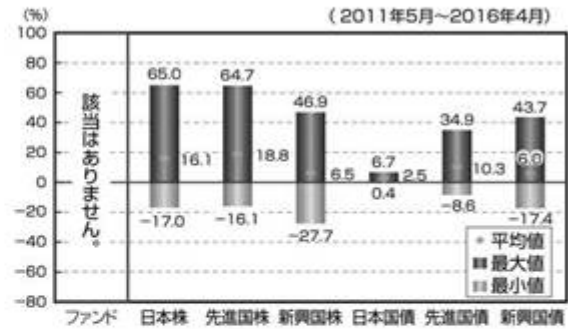
【資源国通貨コース(年2回決算型)】



【円コース(年2回決算型)】



②ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



*各グラフにおけるファンドの年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)に該当するデータはありません。

*②の各グラフは2011年5月から2016年4月までの5年間の年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均-最大-最小を他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*分配金再投資基準価額は、分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算しており、実際の基準価額の推移とは異なる場合があります。

*②の各グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的にそれぞれ比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

(参考情報)

①ファンドの年間騰落率および基準価額の推移

【ユーロコース(年2回決算型)】



【トルコリラコース(年2回決算型)】



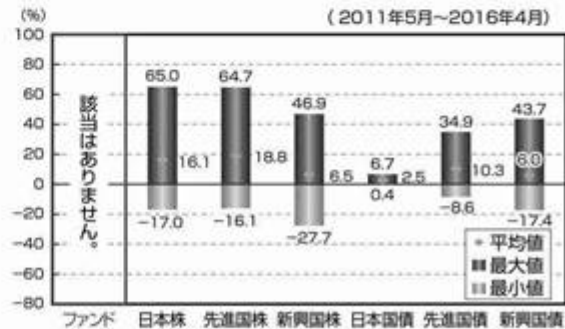
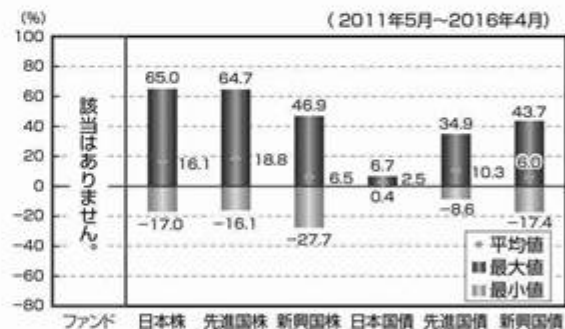
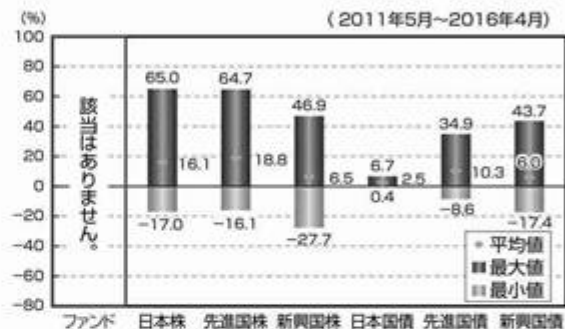
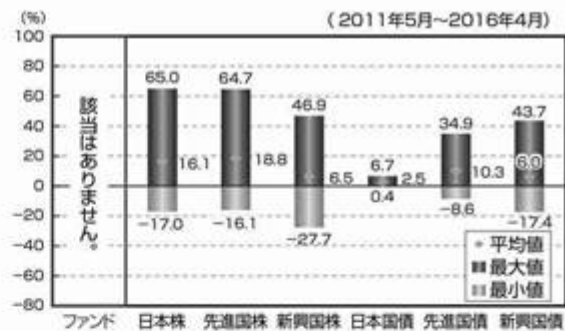
【米ドルコース(年2回決算型)】



【メキシコペソコース(年2回決算型)】



②ファンドと他の代表的な資産クラスとの騰落率の比較



*各グラフにおけるファンドの年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)に該当するデータはありません。

*②の各グラフは2011年5月から2016年4月までの5年間の年間騰落率(各月末における直近1年間の騰落率)の平均・最大・最小を他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

*②の各グラフは、ファンドと代表的な資産クラスを定量的にそれぞれ比較できるように作成したものであり、全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

(参考情報)

○各資産クラスの指数について

日本株 東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部に上場している全銘柄を対象として算出した指数で、TOPIXの指数値およびTOPIXの商標は東京証券取引所の知的財産であり、同指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利およびTOPIXの商標に関するすべての権利は、東京証券取引所が有します。東京証券取引所は、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの指数値の算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有します。

先進国株 MSCIコクサイ・インデックス(税引後配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

新興国株 MSCIエマージング・マーケット・インデックス(税引後配当込み、円ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスとは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有します。

日本国債 NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表する、国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。同指数の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属します。

先進国債 シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

シティ世界国債インデックスとは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はCitigroup Index LLCに帰属します。また、Citigroup Index LLCは同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有します。

新興国債 JPMオルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド(円ベース)

JPMオルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイドとは、J.P.Morgan Securities LLCが算出し公表している、現地通貨建てのエマージング・マーケット債で構成されている指数です。同指数の著作権はJ.P.Morgan Securities LLCに帰属します。

(注)海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数を採用しております。

4【手数料等及び税金】

(5)【課税上の取扱い】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 4 手数料等及び税金 (5) 課税上の取扱い」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

日本の居住者である受益者に対する課税上の取扱いは、平成28年4月現在の内容に基づいて記載しており、税法が改正された場合等には、以下の内容および本書における税制に関する記載内容が変更になることがあります。ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。

個人の受益者に対する課税

○収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金は配当所得として下記の税率により源泉徴収されます。

なお、原則として申告分離課税¹または総合課税により確定申告を行う必要がありますが申告不要制度を選択することができます。

○換金時および償還時における差益は譲渡所得等となり、下記の税率による申告分離課税¹が適用され、確定申告が必要となります。ただし、特定口座（源泉徴収選択口座）を利用している場合は、下記の税率により源泉徴収が行われ、原則として、確定申告は不要となります。

期間	税率
平成49年12月31日まで	20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315% ² 、地方税5%）
平成50年1月1日以降	20%（所得税15%および地方税5%）

- 1 申告分離課税を選択した場合において、上場株式等の譲渡損失の金額がある場合には、上場株式等の配当所得（収益分配金を含みます。）と当該上場株式等の譲渡損失（解約損、償還損を含みます。）の損益通算³をすることができます（当該上場株式等の配当所得の金額を限度とします。）。なお、損益通算してもなお控除しきれない損失の金額については、翌年以降3年間にわたり繰越控除が可能です。
- 2 平成49年12月31日までは、復興特別所得税（基準所得税額に対して2.1%を乗じて得た金額）が加算されます。
- 3 平成28年1月1日以降、上記の損益通算の対象範囲に、特定公社債等（公募公社債投資信託を含みます。）の利子所得等および譲渡所得等が追加されます。

（注）ファンドは、配当控除は適用されません。

* 公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。少額投資非課税制度「愛称：NISA（ニーサ）」をご利用の場合、毎年、一定額の範囲で新たに購入した公募株式投資信託などから生じる配当所得および譲渡所得が5年間非課税となります。ご利用になれるのは、販売会社で非課税口座を開設するなど、一定の条件に該当する方が対象となります。また、20歳未満の居住者などを対象とした同様の非課税措置（ジュニアNISA）もあります。なお、他の口座で生じた配当所得や譲渡所得との損益通算はできません。詳しくは、販売会社にお問合せください。

法人の受益者に対する課税

収益分配金のうち課税扱いとなる普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額について、下記の税率により源泉徴収されます（地方税の源泉徴収はありません。）。源泉徴収された税金は、所有期間に応じて税額控除が適用されます。

期間	税率
平成49年12月31日まで	15.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%）
平成50年1月1日以降	15%（所得税15%）

平成49年12月31日までは、復興特別所得税（基準所得税額に対して2.1%を乗じて得た金額）が加算されます。

（注）ファンドは、益金不算入制度は適用されません。

個別元本について

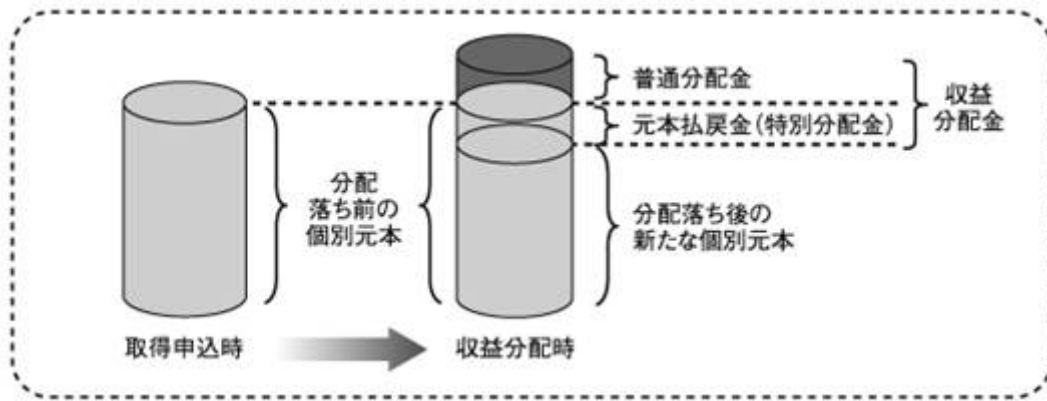
- 1) 追加型の株式投資信託について、受益者ごとの取得申込時のファンドの価額等（申込手数料は含まれません。）が受益者の元本（個別元本）に当たります。
- 2) 受益者が同一ファンドを複数回取得した場合の個別元本は、受益者が追加信託を行うつど、その受益者の受益権口数で加重平均することにより算出されます。
- 3) 同一ファンドを複数の販売会社で取得する場合については販売会社ごとに、個別元本の算出が行われます。また、同一販売会社であっても複数支店等で同一ファンドを取得する場合は支店等ごとに、「一般コース」と「自動けいぞく投資コース」とがあり、両コースで取得する場合はコース別に、個別元本の算出が行われる場合があります。詳しくは販売会社にお問合せください。
- 4) 受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個別元本となります。

「元本払戻金（特別分配金）」については、後記「収益分配金の課税について」をご参照ください。

収益分配金の課税について

追加型株式投資信託の収益分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」（受益者ごとの元本の一部払戻しに相当する部分）の区分があります。

受益者が収益分配金を受け取る際、収益分配金落ち後の基準価額が受益者の個別元本と同額の場合または受益者の個別元本を上回っている場合には、収益分配金の全額が普通分配金となり、収益分配金落ち後の基準価額が受益者の個別元本を下回っている場合には、その下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）となり、収益分配金から前記元本払戻金（特別分配金）を控除した額が普通分配金となります。なお、受益者が元本払戻金（特別分配金）を受け取った場合、収益分配金発生時にその個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の受益者の個別元本となります。



上図は収益分配金のイメージ図であり、収益分配金の支払いおよびその水準を保証するものではありません。

課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認ください。

5【運用状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第1 ファンドの状況 5 運用状況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

以下は平成28年4月末日現在の運用状況です。

また、投資比率は、小数点以下第3位を切捨てて表示しているため、当該比率の合計と合計欄の比率が一致しない場合があります。

(1)【投資状況】

信託財産の構成

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.52
投資証券	ルクセンブルク	1,860,604	96.89
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		49,645	2.58
合計（純資産総額）		1,920,248	100.00

（注）投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該資産の時価合計比率をいいます。以下同じ。

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.11
投資証券	ルクセンブルク	8,172,980	97.23
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		222,717	2.64
合計（純資産総額）		8,405,696	100.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.89
投資証券	ルクセンブルク	1,071,699	96.29
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		31,264	2.80
合計（純資産総額）		1,112,962	100.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.12
投資証券	ルクセンブルク	7,944,944	98.14
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		139,850	1.72
合計（純資産総額）		8,094,793	100.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.07
投資証券	ルクセンブルク	12,999,870	92.69
現金・預金・その他の資産（負債控除後）		1,014,038	7.23
合計（純資産総額）		14,023,907	100.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.13
投資証券	ルクセンブルク	7,467,150	98.16
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		129,763	1.70
合計(純資産総額)		7,606,912	100.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(米ドルコース) <年2回決算型>」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	79,992	0.14
投資証券	ルクセンブルク	52,496,971	97.85
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		1,070,286	1.99
合計(純資産総額)		53,647,249	100.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(メキシコペソコース) <年2回決算型>」

資産の種類	国/地域	時価合計(円)	投資比率(%)
投資信託受益証券	日本	9,999	0.84
投資証券	ルクセンブルク	1,132,847	96.20
現金・預金・その他の資産(負債控除後)		34,647	2.94
合計(純資産総額)		1,177,493	100.00

(2) 【投資資産】

【投資有価証券の主要銘柄】

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(ユーロコース) <年2回決算型>」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ)	227.291	7,902.59	1,796,187	8,186.00	1,860,604	96.89
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーパールファンド(適格機関投資家 専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.52

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該銘柄の評価額比率をいいます。以下同じ。

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(ブラジルリアルコース) <年2回決算型>」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルリアル)	2,571.737	2,924.38	7,520,753	3,178.00	8,172,980	97.23
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーパールファンド(適格機関投資家 専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.11

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(資源国通貨コース) <年2回決算型>」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨)	228.41	4,332.15	989,507	4,692.00	1,071,699	96.29
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーパールファンド(適格機関投資家 専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.89

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(円コース) <年2回決算型>」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円)	913.317	8,648.74	7,899,046	8,699.00	7,944,944	98.14
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーパールファンド(適格機関投資家 専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.12

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(13シェアクラス、豪ドル)	1,847.885	7,016.67	12,966,003	7,035.00	12,999,870	92.69
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.07

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(112シェアクラス、トルコリラ)	1,100.538	6,412.96	7,057,710	6,785.00	7,467,150	98.16
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.13

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(15シェアクラス、米ドル)	5,221.501	9,644.39	50,358,239	10,054.00	52,496,971	97.85
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	79,389	1.0076	79,992	1.0076	79,992	0.14

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞」

順位	国/地域	種類	銘柄名	口数	帳簿価額 単価 (円)	帳簿価額 (円)	評価額 単価 (円)	評価額 (円)	投資 比率 (%)
1	ルクセンブルク	投資証券	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(13シェアクラス、メキシコペソ)	147.104	7,197.07	1,058,718	7,701.00	1,132,847	96.20
2	日本	投資信託 受益証券	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	1.0076	9,999	1.0076	9,999	0.84

種類別投資比率

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.52
外国	投資証券	96.89
合計		97.41

(注) 投資比率とは、ファンドの純資産総額に対する当該種類の評価額比率をいいます。以下同じ。

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.11
外国	投資証券	97.23
合計		97.35

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.89
外国	投資証券	96.29
合計		97.19

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.12
外国	投資証券	98.14
合計		98.27

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.07
外国	投資証券	92.69
合計		92.76

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.13
外国	投資証券	98.16
合計		98.29

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.14
外国	投資証券	97.85
合計		98.00

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞」

国内/外国	種類	投資比率(%)
国内	投資信託受益証券	0.84
外国	投資証券	96.20
合計		97.05

【投資不動産物件】

該当事項はありません。

【その他投資資産の主要なもの】

該当事項はありません。

(3) 【運用実績】

【純資産の推移】

平成28年4月末日及び同日前1年以内における各月末ならびに下記の計算期間末の純資産の推移は次の通りです。

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	1,903,807	1,903,807	0.9824	0.9824
平成28年 1月末日	1,912,010	-	1.0117	-
2月末日	1,820,495	-	0.9633	-
3月末日	1,972,076	-	1.0177	-
4月末日	1,920,248	-	1.0160	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	6,504,251	6,510,635	1.0187	1.0197
平成28年 1月末日	3,417,082	-	0.9874	-
2月末日	3,967,071	-	0.9707	-
3月末日	6,951,006	-	1.0887	-
4月末日	8,405,696	-	1.1147	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	1,030,598	1,031,607	1.0213	1.0223
平成28年 1月末日	1,007,976	-	1.0080	-
2月末日	976,740	-	0.9767	-
3月末日	1,096,838	-	1.0869	-
4月末日	1,112,962	-	1.1020	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	1,077,201	1,078,259	1.0178	1.0188
平成28年 1月末日	1,044,587	-	0.9959	-
2月末日	1,034,689	-	0.9865	-
3月末日	1,076,398	-	1.0171	-
4月末日	8,094,793	-	1.0251	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	4,303,189	4,307,460	1.0073	1.0083
平成28年 1月末日	2,236,556	-	1.0113	-
2月末日	2,157,572	-	0.9756	-
3月末日	4,574,606	-	1.0709	-
4月末日	14,023,907	-	1.0603	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	7,202,076	7,202,076	0.9951	0.9951
平成28年 1月末日	3,587,521	-	1.0114	-
2月末日	4,922,264	-	0.9669	-
3月末日	6,558,035	-	1.0390	-
4月末日	7,606,912	-	1.0510	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末（平成28年 4月 8日）	50,960,481	50,960,481	0.9240	0.9240

平成28年 1月末日	50,361,431	-	0.9979	-
2月末日	48,799,741	-	0.9406	-
3月末日	52,865,318	-	0.9586	-
4月末日	53,647,249	-	0.9620	-

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(メキシコペソコース) <年2回決算型>」

期間	純資産総額 (分配落)(円)	純資産総額 (分配付)(円)	1口当たり 純資産額 (分配落)(円)	1口当たり 純資産額 (分配付)(円)
第1期計算期間末(平成28年 4月 8日)	987,831	987,831	0.9405	0.9405
平成28年 1月末日	976,983	-	0.9770	-
2月末日	943,368	-	0.9434	-
3月末日	1,063,779	-	1.0128	-
4月末日	1,177,493	-	1.0043	-

【分配の推移】

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(ユーロコース) <年2回決算型>」

期間		1口当たり分配金(円)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0000

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(ブラジルリアルコース) <年2回決算型>」

期間		1口当たり分配金(円)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0010

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(資源国通貨コース) <年2回決算型>」

期間		1口当たり分配金(円)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0010

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(円コース) <年2回決算型>」

期間		1口当たり分配金(円)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0010

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(豪ドルコース) <年2回決算型>」

期間		1口当たり分配金(円)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0010

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(トルコリラコース) <年2回決算型>」

期間		1口当たり分配金(円)

第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0000
---------	--------------------------------	--------

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞」

期間		1口当たり分配金（円）
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0000

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞」

期間		1口当たり分配金（円）
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.0000

【収益率の推移】

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	1.8

（注）収益率は以下の計算式により算出しております。

$(\text{当該計算期間末分配付基準価額} - \text{当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額}) \div (\text{当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額}) \times 100$

ただし、第1期計算期間については「当該計算期間の直前の計算期間末分配落基準価額」に代えて設定時の基準価額（10,000円）を用いております。

なお、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位まで表示しております。以下同じ。

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	2.0

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	2.2

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	1.9

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.8

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	0.5

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	7.6

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞」

期間		収益率(%)
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	6.0

(4) 【設定及び解約の実績】

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞」

期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	1,937,830		1,937,830

(注1) 全て本邦内におけるものです。以下同じ。

(注2) 第1期計算期間の設定口数には、当初募集期間の設定口数を含みます。以下同じ。

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞」

期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	6,428,641	43,965	6,384,676

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞」

期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	1,009,136		1,009,136

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞」

期間	設定口数	解約口数	発行済口数

第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	1,058,340		1,058,340
---------	--------------------------------	-----------	--	-----------

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(豪ドルコース) <年2回決算型>」

	期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	4,271,909		4,271,909

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(トルコリラコース) <年2回決算型>」

	期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	7,237,532		7,237,532

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(米ドルコース) <年2回決算型>」

	期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	55,150,999		55,150,999

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(メキシコペソコース) <年2回決算型>」

	期間	設定口数	解約口数	発行済口数
第1期計算期間	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	1,050,333		1,050,333

< 参考情報 >

運用実績

2016年4月28日現在

◎基準価額・純資産の推移



* 再投資後基準価額は、税引前分配金を分配時に再投資したものと計算しています。

* 基準価額の計算において信託報酬は控除しています。* グラフの目盛はファンドごとに異なる場合があります。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

◎分配の推移

年2回決算型

決算日	ユーロ コース	ブラジル レアルコース	資源国通貨 コース	円コース	豪ドル コース	トルコリラ コース	米ドル コース	メキシコペソ コース
1期(2016年4月8日)	0円	10円	10円	10円	10円	0円	0円	0円
設定来累計	0円	10円	10円	10円	10円	0円	0円	0円

* 分配金は、1万円当たり税引前です。

◎主要な資産の状況

ストラクチャラ-欧州ハイ・イールド・ボンド

◆組入上位10銘柄

銘柄	クーポン(%)	償還日	格付	比率
1 Amundi 3 M*	-	-	A-	4.97%
2 Amundi Tresor Court Terme*	-	-	A-	4.07%
3 イタリア電力公社	6.500	2074/1/10	BB+	0.96%
4 Fiat Chrysler Finance Europe	6.750	2019/10/14	BB-	0.95%
5 Virgin Media Secured Finance	6.000	2021/4/15	BB-	0.93%
6 インテサ・サンパオロ	8.047	2018/6/20	BB-	0.87%
7 ソフトバンクグループ	4.750	2025/7/30	BB+	0.82%
8 インテサ・サンパオロ	6.625	2023/9/13	BB+	0.81%
9 Wind Acquisition Finance SA	4.000	2020/7/15	BB-	0.79%
10 HeidelbergCement Finance	7.500	2020/4/3	BB+	0.78%

* 投資信託証券です。

◆格付別比率

格付	比率
A-	9.15%
BBB+	0.07%
BBB	1.33%
BBB-	3.46%
BB+	20.14%
BB	15.02%
BB-	15.20%
B+	11.21%
B	10.99%
B-	5.36%
CCC+	1.79%
CCC	0.17%

* 格付はS&P, Moody'sおよびFitchの格付を基準に弊社が独自に分類したものです。

平均格付	B+	組入全銘柄数	324
------	----	--------	-----

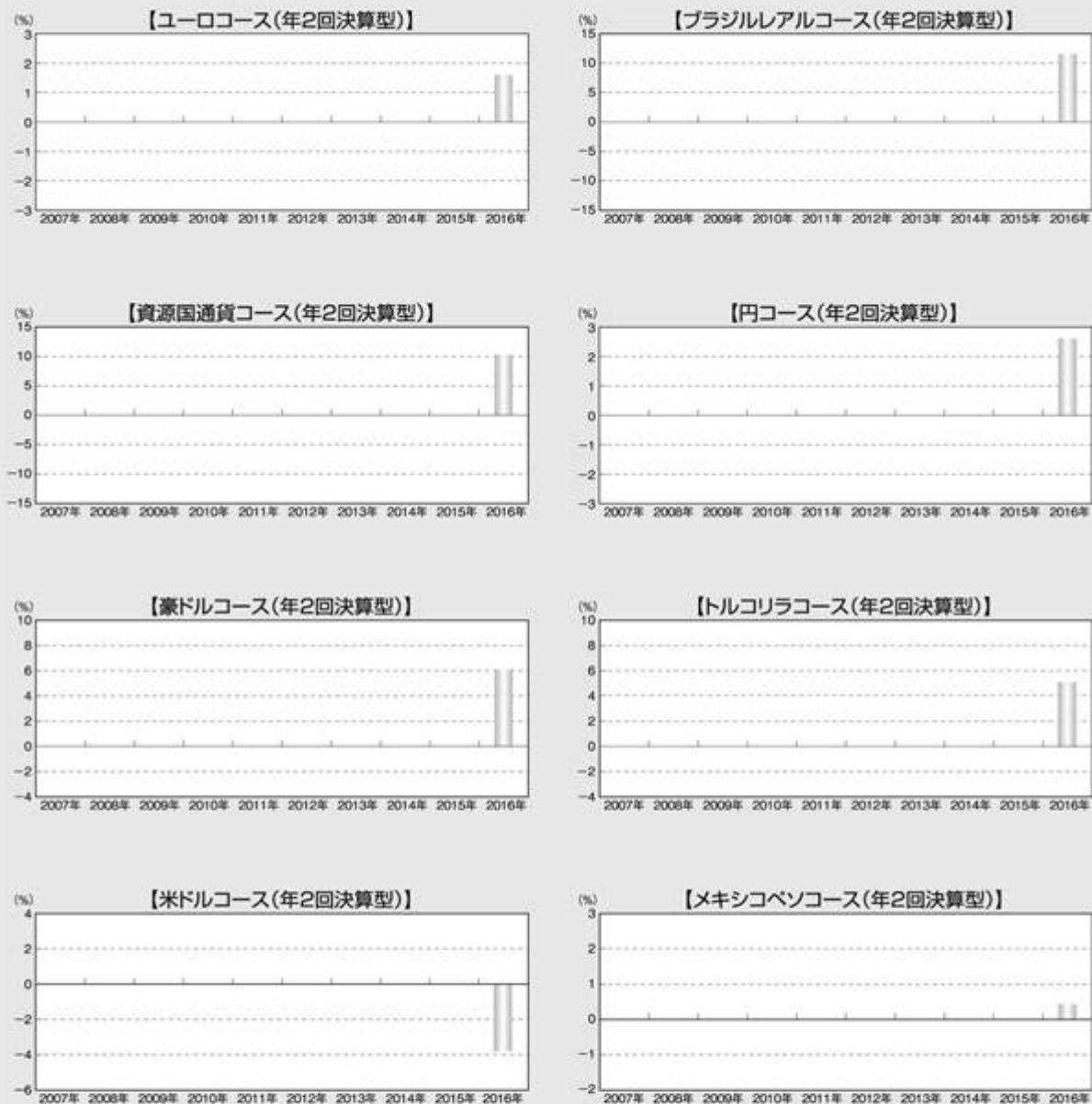
* 平均格付とは、基準日時点でストラクチャラ-欧州ハイ・イールド・ボンドが保有している有価証券の信用格付を加重平均したものであり、ストラクチャラ-欧州ハイ・イールド・ボンドおよび各ファンドの信用格付ではありません。

* 比率は、ストラクチャラ-欧州ハイ・イールド・ボンドの純資産総額に対する割合です。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
 ※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

2016年4月28日現在

◎年間収益率の推移



- * 年間収益率は、税引前分配金を分配時に再投資したものとして計算しています。 * ファンドにはベンチマークはありません。
- * グラフの目盛はファンドごとに異なる場合があります。
- * 2016年は設定日(1月14日)から4月28日までの騰落率を表示しています。

※上記の運用実績は、過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
 ※運用実績等については、表紙に記載の委託会社ホームページにおいて閲覧することができます。

第3【ファンドの経理状況】

原届出書の「第二部 ファンド情報 第3 ファンドの経理状況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）<年2回決算型>】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）<年2回決算型>

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	78,215
コール・ローン	16,497
投資信託受益証券	9,999
投資証券	1,803,727
流動資産合計	1,908,438
資産合計	1,908,438
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	153
未払委託者報酬	4,465
その他未払費用	13
流動負債合計	4,631
負債合計	4,631
純資産の部	
元本等	
元本	1,937,830
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	34,023

(分配準備積立金)	39,848
元本等合計	1,903,807
純資産合計	1,903,807
負債純資産合計	1,908,438

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	44,479
有価証券売買等損益	70,869
営業収益合計	26,390
営業費用	
受託者報酬	153
委託者報酬	4,465
その他費用	13
営業費用合計	4,631
営業利益又は営業損失()	31,021
経常利益又は経常損失()	31,021
当期純利益又は当期純損失()	31,021
剰余金減少額又は欠損金増加額	3,002
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	3,002
分配金	
期末剰余金又は期末欠損金()	34,023

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	937,830円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,937,830口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は34,023円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程	
計算期間末における分配対象収益額は40,546円（1万口当たり209円）ですが、分配を行っておりません。	
A	費用控除後の配当等収益額 39,848円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 698円
D	分配準備積立金額 0円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 40,546円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 1,937,830口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 209円
H	1万口当たり分配金額 0円

I 分配金額 (F × H / 10,000)

0円

(金融商品に関する注記)

.金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。

.金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	(平成28年 4月 8日)
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2) 有価証券 時価の算定方法は「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「(有価証券に関する注記)」に記載しております。 (3) デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	70,868
合計	70,869

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.9824円 （9,824円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	0.5%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			9,999	
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I10シェアクラス、ユーロ)	228.291	1,803,727	
		小計	228.291	1,803,727	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	94.7%	100.0%	
	投資証券 合計			1,803,727	
合計				1,813,726	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	1,615,183
コール・ローン	340,666
投資信託受益証券	79,992
投資証券	49,033,869
流動資産合計	51,069,710
資産合計	51,069,710
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	3,218
未払委託者報酬	105,023
その他未払費用	988
流動負債合計	109,229
負債合計	109,229
純資産の部	
元本等	
元本	55,150,999
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	4,190,518
(分配準備積立金)	1,300,772
元本等合計	50,960,481
純資産合計	50,960,481
負債純資産合計	51,069,710

（２）【損益及び剰余金計算書】

（単位：円）

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	1,409,940
受取利息	61
有価証券売買等損益	5,120,807
営業収益合計	3,710,806
営業費用	
受託者報酬	3,218
委託者報酬	105,023
その他費用	988
営業費用合計	109,229
営業利益又は営業損失（ ）	3,820,035
経常利益又は経常損失（ ）	3,820,035
当期純利益又は当期純損失（ ）	3,820,035
剰余金減少額又は欠損金増加額	370,483
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	370,483
分配金	
期末剰余金又は期末欠損金（ ）	4,190,518

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	8,000,000円
期中追加設定元本額	47,150,999円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	55,150,999口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は4,190,518円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程	
計算期間末における分配対象収益額は1,353,682円（1万口当たり245円）ですが、分配を行っておりません。	
A	費用控除後の配当等収益額 1,300,772円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 52,910円
D	分配準備積立金額 0円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 1,353,682円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 55,150,999口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 245円

H	1万口当たり分配金額	0円
I	分配金額（F × H / 10,000）	0円

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にはリスク委員会に報告しております。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	（平成28年 4月 8日）
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 （2）有価証券 時価の算定方法は「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「（有価証券に関する注記）」に記載しております。 （3）デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	8
投資証券	5,120,799
合計	5,120,807

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.9240円 （9,240円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	79,389	79,992	
		小計	79,389	79,992	
		銘柄数 組入時価比率	1 0.2%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計				79,992
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I5シェアクラス、米ドル)	5,086.501	49,033,869	
		小計	5,086.501	49,033,869	
		銘柄数 組入時価比率	1 96.2%	100.0%	
	投資証券 合計				49,033,869
合計				49,113,861	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞】

1. 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
2. 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
3. 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	155,766
コール・ローン	32,853
投資信託受益証券	9,999
投資証券	4,115,343
流動資産合計	4,313,961
資産合計	4,313,961
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	4,271
未払受託者報酬	196
未払委託者報酬	6,278
その他未払費用	27
流動負債合計	10,772
負債合計	10,772
純資産の部	
元本等	
元本	4,271,909
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	31,280
(分配準備積立金)	132,314
元本等合計	4,303,189
純資産合計	4,303,189
負債純資産合計	4,313,961

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	143,086
有価証券売買等損益	207,429
営業収益合計	64,343
営業費用	
受託者報酬	196
委託者報酬	6,278
その他費用	27
営業費用合計	6,501
営業利益又は営業損失()	70,844
経常利益又は経常損失()	70,844
当期純利益又は当期純損失()	70,844
剰余金増加額又は欠損金減少額	106,395
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	106,395
分配金	4,271
期末剰余金又は期末欠損金()	31,280

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,009,687円
期中追加設定元本額	3,262,222円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	4,271,909口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程 計算期間末における分配対象収益額204,383円（1万口当たり478円）のうち4,271円（1万口当たり10円）を分配金額としております。	
A 費用控除後の配当等収益額	136,585円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C 収益調整金額	67,798円
D 分配準備積立金額	0円
E 当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D）	204,383円
F 当ファンドの期末残存受益権口数	4,271,909口
G 1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000）	478円
H 1万口当たり分配金額	10円
I 分配金額（F × H / 10,000）	4,271円

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にはリスク委員会に報告しております。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	（平成28年 4月 8日）
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 （2）有価証券 時価の算定方法は「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「（有価証券に関する注記）」に記載しております。 （3）デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	207,428
合計	207,429

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.0073円 （10,073円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	0.2%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			9,999	
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I3シェアクラス、豪ドル)	615.885	4,115,343	
		小計	615.885	4,115,343	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	95.6%	100.0%	
	投資証券 合計			4,115,343	
合計				4,125,342	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	214,306
コール・ローン	45,200
投資信託受益証券	9,999
投資証券	6,251,743
流動資産合計	6,521,248
資産合計	6,521,248
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	6,384
未払受託者報酬	315
未払委託者報酬	10,234
その他未払費用	64
流動負債合計	16,997
負債合計	16,997
純資産の部	
元本等	
元本	6,384,676
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	119,575
(分配準備積立金)	187,274
元本等合計	6,504,251
純資産合計	6,504,251
負債純資産合計	6,521,248

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位：円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	205,242
有価証券売買等損益	116,167
営業収益合計	89,075
営業費用	
受託者報酬	315
委託者報酬	10,234
その他費用	64
営業費用合計	10,613
営業利益又は営業損失()	78,462
経常利益又は経常損失()	78,462
当期純利益又は当期純損失()	78,462
一部解約に伴う当期純利益金額の分配額 又は一部解約に伴う当期純損失金額の 分配額()	3,841
剰余金増加額又は欠損金減少額	51,338
当期一部解約に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	316
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金 減少額	51,022
分配金	6,384
期末剰余金又は期末欠損金()	119,575

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	5,428,641円
期中一部解約元本額	43,965円
2. 計算期間末日における受益権の総数	6,384,676口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程 計算期間末における分配対象収益額276,243円（1万口当たり432円）のうち6,384円（1万口当たり10円）を分配金額としております。	
A 費用控除後の配当等収益額	193,658円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C 収益調整金額	82,585円
D 分配準備積立金額	0円
E 当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D）	276,243円
F 当ファンドの期末残存受益権口数	6,384,676口
G 1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000）	432円
H 1万口当たり分配金額	10円
I 分配金額（F × H / 10,000）	6,384円

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にはリスク委員会に報告しております。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	（平成28年 4月 8日）
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 （2）有価証券 時価の算定方法は「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「（有価証券に関する注記）」に記載しております。 （3）デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	116,166
合計	116,167

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.0187円 （10,187円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	0.2%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			9,999	
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I4シェアクラス、ブラジルリアル)	2,161.737	6,251,743	
		小計	2,161.737	6,251,743	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	96.1%	100.0%	
	投資証券 合計			6,251,743	
合計				6,261,742	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	43,139
コール・ローン	9,099
投資信託受益証券	9,999
投資証券	971,919
流動資産合計	1,034,156
資産合計	1,034,156
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	1,009
未払受託者報酬	85
未払委託者報酬	2,463
その他未払費用	1
流動負債合計	3,558
負債合計	3,558
純資産の部	
元本等	
元本	1,009,136
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	21,462
(分配準備積立金)	32,974
元本等合計	1,030,598
純資産合計	1,030,598
負債純資産合計	1,034,156

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	36,532
有価証券売買等損益	12,062
営業収益合計	24,470
営業費用	
受託者報酬	85
委託者報酬	2,463
その他費用	1
営業費用合計	2,549
営業利益又は営業損失()	21,921
経常利益又は経常損失()	21,921
当期純利益又は当期純損失()	21,921
剰余金増加額又は欠損金減少額	550
当期追加信託に伴う剰余金増加額又は欠損金減少額	550
分配金	1,009
期末剰余金又は期末欠損金()	21,462

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	9,136円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,009,136口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程 計算期間末における分配対象収益額34,219円（1万口当たり339円）のうち1,009円（1万口当たり10円）を分配金額としております。	
A 費用控除後の配当等収益額	33,983円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	0円
C 収益調整金額	236円
D 分配準備積立金額	0円
E 当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D）	34,219円
F 当ファンドの期末残存受益権口数	1,009,136口
G 1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000）	339円
H 1万口当たり分配金額	10円
I 分配金額（F × H / 10,000）	1,009円

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	（平成28年 4月 8日）
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 （2）有価証券 時価の算定方法は「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「（有価証券に関する注記）」に記載しております。 （3）デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	12,061
合計	12,062

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.0213円 （10,213円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	1.0%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			9,999	
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I11シェアクラス、資源国通貨)	224.41	971,919	
		小計	224.41	971,919	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	94.3%	100.0%	
	投資証券 合計			971,919	
合計				981,918	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	44,461
コール・ローン	9,377
投資信託受益証券	9,999
投資証券	926,450
流動資産合計	990,287
資産合計	990,287
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	82
未払委託者報酬	2,373
その他未払費用	1
流動負債合計	2,456
負債合計	2,456
純資産の部	
元本等	
元本	1,050,333
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	62,502
(分配準備積立金)	21,190
元本等合計	987,831
純資産合計	987,831
負債純資産合計	990,287

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	23,646
有価証券売買等損益	81,792
営業収益合計	58,146
営業費用	
受託者報酬	82
委託者報酬	2,373
その他費用	1
営業費用合計	2,456
営業利益又は営業損失()	60,602
経常利益又は経常損失()	60,602
当期純利益又は当期純損失()	60,602
剰余金減少額又は欠損金増加額	1,900
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	1,900
分配金	
期末剰余金又は期末欠損金()	62,502

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	50,333円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,050,333口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は62,502円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程	
計算期間末における分配対象収益額は21,659円（1万口当たり206円）ですが、分配を行っておりません。	
A	費用控除後の配当等収益額 21,190円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 469円
D	分配準備積立金額 0円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 21,659円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 1,050,333口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 206円
H	1万口当たり分配金額 0円

I 分配金額 (F × H / 10,000)

0円

(金融商品に関する注記)

.金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。

.金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	(平成28年 4月 8日)
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2) 有価証券 時価の算定方法は「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「(有価証券に関する注記)」に記載しております。 (3) デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	81,791
合計	81,792

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.9405円 （9,405円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	1.0%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			9,999	
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I13シェアクラス、メキシコペソ)	129.104	926,450	
		小計	129.104	926,450	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	93.8%	100.0%	
	投資証券 合計			926,450	
合計				936,449	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	314,153
コール・ローン	66,260
投資信託受益証券	9,999
投資証券	6,823,688
流動資産合計	7,214,100
資産合計	7,214,100
負債の部	
流動負債	
未払受託者報酬	358
未払委託者報酬	11,582
その他未払費用	84
流動負債合計	12,024
負債合計	12,024
純資産の部	
元本等	
元本	7,237,532
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	35,456
(分配準備積立金)	254,592
元本等合計	7,202,076
純資産合計	7,202,076
負債純資産合計	7,214,100

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	266,616
有価証券売買等損益	224,113
営業収益合計	42,503
営業費用	
受託者報酬	358
委託者報酬	11,582
その他費用	84
営業費用合計	12,024
営業利益又は営業損失()	30,479
経常利益又は経常損失()	30,479
当期純利益又は当期純損失()	30,479
剰余金減少額又は欠損金増加額	65,935
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	65,935
分配金	
期末剰余金又は期末欠損金()	35,456

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	6,237,532円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	7,237,532口
3. 元本の欠損	貸借対照表上の純資産額が元本総額を下回っており、その差額は35,456円であります。

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程	
計算期間末における分配対象収益額は375,922円（1万口当たり519円）ですが、分配を行っておりません。	
A	費用控除後の配当等収益額 254,592円
B	費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額 0円
C	収益調整金額 121,330円
D	分配準備積立金額 0円
E	当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D） 375,922円
F	当ファンドの期末残存受益権口数 7,237,532口
G	1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000） 519円
H	1万口当たり分配金額 0円

I 分配金額 (F × H / 10,000)

0円

(金融商品に関する注記)

. 金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	(平成28年 4月 8日)
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありませぬ。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	(1) 有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 (2) 有価証券 時価の算定方法は「(重要な会計方針に係る事項に関する注記)」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「(有価証券に関する注記)」に記載しております。 (3) デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

(有価証券に関する注記)

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	224,112
合計	224,113

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	0.9951円 （9,951円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	0.1%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計			9,999	
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I 12シェアクラス、トルコリラ)	1,064.538	6,823,688	
		小計	1,064.538	6,823,688	
		銘柄数	1		
		組入時価比率	94.7%	100.0%	
	投資証券 合計			6,823,688	
合計				6,833,687	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

【アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞】

- 当ファンドの財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）並びに同規則第2条の2の規定により、「投資信託財産の計算に関する規則」（平成12年総理府令第133号）に基づき作成しております。
なお、財務諸表に記載している金額は、円単位で表示しております。
- 当ファンドの計算期間は6ヵ月であるため、財務諸表は6ヵ月毎に作成しております。
- 当ファンドは、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1期計算期間(平成28年1月14日から平成28年4月8日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

1【財務諸表】

アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞

(1)【貸借対照表】

(単位：円)

	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
資産の部	
流動資産	
金銭信託	44,546
コール・ローン	9,395
投資信託受益証券	9,999
投資証券	1,016,934
流動資産合計	1,080,874
資産合計	1,080,874
負債の部	
流動負債	
未払収益分配金	1,058
未払受託者報酬	85
未払委託者報酬	2,529
その他未払費用	1
流動負債合計	3,673
負債合計	3,673
純資産の部	
元本等	
元本	1,058,340
剰余金	
期末剰余金又は期末欠損金()	18,861
(分配準備積立金)	19,083
元本等合計	1,077,201
純資産合計	1,077,201
負債純資産合計	1,080,874

(2) 【損益及び剰余金計算書】

(単位 : 円)

	第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
営業収益	
受取配当金	18,861
有価証券売買等損益	3,895
営業収益合計	22,756
営業費用	
受託者報酬	85
委託者報酬	2,529
その他費用	1
営業費用合計	2,615
営業利益又は営業損失()	20,141
経常利益又は経常損失()	20,141
当期純利益又は当期純損失()	20,141
剰余金減少額又は欠損金増加額	222
当期追加信託に伴う剰余金減少額又は欠損金 増加額	222
分配金	1,058
期末剰余金又は期末欠損金()	18,861

(3) 【注記表】

(重要な会計方針に係る事項に関する注記)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法	(1) 投資信託受益証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。 (2) 投資証券 移動平均法に基づき、原則として時価で評価しております。時価評価にあたっては、基準価額で評価しております。
2. 収益及び費用の計上基準	受取配当金 原則として、収益分配金落ち日において、当該収益分配金金額を計上しております。
3. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項	計算期間の取扱い ファンドの計算期間は、設定日の平成28年1月14日から平成28年4月8日までとなっております。

(貸借対照表に関する注記)

項目	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
1. 期首元本額	1,000,000円
期中追加設定元本額	58,340円
期中一部解約元本額	円
2. 計算期間末日における受益権の総数	1,058,340口

(損益及び剰余金計算書に関する注記)

第1期計算期間 自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日	
分配金の計算過程 計算期間末における分配対象収益額20,237円（1万口当たり191円）のうち1,058円（1万口当たり10円）を分配金額としております。	
A 費用控除後の配当等収益額	16,694円
B 費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	3,447円
C 収益調整金額	96円
D 分配準備積立金額	0円
E 当ファンドの分配対象収益額（A+B+C+D）	20,237円
F 当ファンドの期末残存受益権口数	1,058,340口
G 1万口当たり分配対象収益額（E / F × 10,000）	191円
H 1万口当たり分配金額	10円
I 分配金額（F × H / 10,000）	1,058円

（金融商品に関する注記）

. 金融商品の状況に関する事項

項目	第1期計算期間
	自 平成28年 1月14日 至 平成28年 4月 8日
1. 金融商品に対する取組方針	信託約款に規定する「運用の基本方針」の定めに従い、有価証券等の金融商品を投資対象として運用を行っております。
2. 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク	保有する主な金融商品は、有価証券であり、その内容を貸借対照表、注記表及び附属明細表に記載しております。これらは売買目的で保有しております。 当該金融商品には、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等があります。
3. 金融商品に係るリスク管理体制	リスクマネジメント部が、当ファンドの主要投資対象である投資信託受益証券及び投資証券のパフォーマンス状況及びマーケット動向等のモニタリングを行っております。また、価格変動リスク、金利変動リスク、為替変動リスク、信用リスク及び流動性リスク等の運用リスクを分析し、定期的にリスク委員会に報告しております。

. 金融商品の時価等に関する事項

項目	第1期計算期間末
	（平成28年 4月 8日）
1. 貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額	貸借対照表計上額は、期末の時価で計上しているためその差額はありません。
2. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項	（1）有価証券及びデリバティブ取引以外の金融商品 短期間で決済されることから、時価は帳簿価額と近似しているため、当該金融商品の帳簿価額を時価としております。 （2）有価証券 時価の算定方法は「（重要な会計方針に係る事項に関する注記）」に記載しております。また、有価証券に関する注記事項については、「（有価証券に関する注記）」に記載しております。 （3）デリバティブ取引 該当事項はありません。
3. 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明	金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。

（有価証券に関する注記）

売買目的有価証券

種類	第1期計算期間末 (平成28年 4月 8日)
	当計算期間の損益に 含まれた評価差額(円)
投資信託受益証券	1
投資証券	3,896
合計	3,895

（デリバティブ取引等に関する注記）

第1計算期間末（平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（関連当事者との取引に関する注記）

第1期計算期間（自平成28年1月14日 至平成28年4月8日）

該当事項はありません。

（1口当たり情報に関する注記）

	第1期計算期間末 （平成28年 4月 8日）
1口当たり純資産額 （1万口当たり純資産額）	1.0178円 （10,178円）

（4）【附属明細表】

第1 有価証券明細表

株式

該当事項はありません。

株式以外の有価証券

種類	通貨	銘柄	口数	評価額	備考
投資信託受益証券	日本円	CAマネーブルファンド(適格機関投資家専用)	9,924	9,999	
		小計	9,924	9,999	
		銘柄数 組入時価比率	1 0.9%	100.0%	
	投資信託受益証券 合計				9,999
投資証券	日本円	ストラクチュラ-欧州ハイ・イールド・ボンド(I9シェアクラス、円)	118.317	1,016,934	
		小計	118.317	1,016,934	
		銘柄数 組入時価比率	1 94.4%	100.0%	
	投資証券 合計				1,016,934
合計				1,026,933	

（注）組入時価比率は、左より組入時価の純資産に対する比率及び各小計欄の各合計金額に対する比率であります。

第2 デリバティブ取引及び為替予約取引の契約額等及び時価の状況表

該当事項はありません。

2【ファンドの現況】

【純資産額計算書】

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	1,969,877 円
負債総額	49,629 円
純資産総額（ - ）	1,920,248 円
発行済口数	1,889,925 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0160 円
（1万口当たり純資産額）	（10,160 円）

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	8,410,327 円
負債総額	4,631 円
純資産総額（ - ）	8,405,696 円
発行済口数	7,540,930 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.1147 円
（1万口当たり純資産額）	（11,147 円）

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	1,113,646 円
負債総額	684 円
純資産総額（ - ）	1,112,962 円
発行済口数	1,009,975 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.1020 円
（1万口当たり純資産額）	（11,020 円）

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	8,097,962 円
負債総額	3,169 円
純資産総額（ - ）	8,094,793 円
発行済口数	7,896,591 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0251 円
（1万口当たり純資産額）	（10,251 円）

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	22,794,209 円
負債総額	8,770,302 円
純資産総額（ - ）	14,023,907 円
発行済口数	13,226,443 口
1口当たり純資産額（ / ）	1.0603 円
（1万口当たり純資産額）	（10,603 円）

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	7,611,515 円
負債総額	4,603 円
純資産総額 (-)	7,606,912 円
発行済口数	7,237,532 口
1口当たり純資産額 (/)	1.0510 円
(1万口当たり純資産額)	(10,510 円)

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	53,680,361 円
負債総額	33,112 円
純資産総額 (-)	53,647,249 円
発行済口数	55,767,189 口
1口当たり純資産額 (/)	0.9620 円
(1万口当たり純資産額)	(9,620 円)

「アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞」

平成28年4月末日現在

資産総額	1,178,195 円
負債総額	702 円
純資産総額 (-)	1,177,493 円
発行済口数	1,172,493 口
1口当たり純資産額 (/)	1.0043 円
(1万口当たり純資産額)	(10,043 円)

第三部【委託会社等の情報】

第1【委託会社等の概況】

2【事業の内容及び営業の概況】

事業の内容

<訂正前>

委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用（投資運用業）を行っています。また「金融商品取引法」に定める第二種金融商品取引業にかかる業務の一部および投資助言・代理業務を行っています。

<訂正後>

委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社は、「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり、証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその投資運用業務および投資助言・代理業務を行っています。また「金融商品取引法」に定める第一種金融商品取引業務および第二種金融商品取引業務を行っています。

営業の概況

<訂正前>

平成27年10月末日現在、委託会社の運用する投資信託の本数、純資産額の合計額は以下の通りです。

種 類	本 数	純 資 産 (百 万 円)
単位型株式投資信託	16	36,777
追加型株式投資信託	194	2,407,809
追加型公社債投資信託	1	16,910
合計	211	2,461,496

<訂正後>

平成28年4月末日現在、委託会社の運用する投資信託の本数、純資産額の合計額は以下の通りです。

種 類	本 数	純 資 産 (百 万 円)
単位型株式投資信託	13	26,992
追加型株式投資信託	201	2,319,793
追加型公社債投資信託	1	11,950
合計	215	2,358,735

3【委託会社等の経理状況】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第1 委託会社等の概況 3 委託会社等の経理状況」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

- (1) 委託会社であるアムンディ・ジャパン株式会社(以下「当社」という)の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号)並びに同規則第2条の規定により、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)に基づいて作成しております。
- (2) 財務諸表の金額については、千円未満の端数を四捨五入して記載しております。
- (3) 当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第35期事業年度(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)の財務諸表について、PwCあらた監査法人により監査を受けております。

(1) 【貸借対照表】

(単位：千円)

	第34期 (平成27年3月31日)		第35期 (平成28年3月31日)	
資産の部				
流動資産				
現金・預金		4,006,104		9,636,443
有価証券		1,280,268		802,951
前払費用		111,748		119,819
未収入金		4,711		3,757
未収委託者報酬		2,133,487		2,292,951
未収運用受託報酬	*1	1,220,234	*1	1,113,454
未収投資助言報酬		4,835		3,301
未収収益	*1	94,651	*1	122,432
繰延税金資産		180,753		202,477
委託証拠金		5,887		-
立替金		111,033		108,253
その他		69		66
流動資産合計		9,153,779		14,405,903
固定資産				
有形固定資産				
建物(純額)	*2	97,438	*2	83,036
器具備品(純額)	*2	113,901	*2	100,390
有形固定資産合計		211,339		183,426
無形固定資産				
ソフトウェア		7,178		45,619
電話加入権		934		934
無形固定資産合計		8,112		46,554
投資その他の資産				
金銭の信託		1,314,154		907,640
投資有価証券		3,240,128		50,697
関係会社株式		84,560		84,560
長期未収入金		3,000		2,000
長期差入保証金		199,857		208,537
ゴルフ会員権		60		60
貸倒引当金		3,000		2,000
投資その他の資産合計		4,838,760		1,251,494
固定資産合計		5,058,211		1,481,474
資産合計		14,211,989		15,887,377

(単位：千円)

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
負債の部		
流動負債		
リース債務	2,319	2,319
預り金	354,200	401,810
未払金	1,463,505	1,461,009
未払手数料	1,258,595	1,263,382
その他未払金	*1 204,910	*1 197,628
未払費用	320,874	382,213
未払法人税等	338,100	246,803
関係会社未払金	*1 616,896	*1 562,135
未払消費税等	263,010	51,838
前受収益	34,455	2,883
賞与引当金	143,567	178,418
役員賞与引当金	29,892	55,325
先物取引	2,257	-
流動負債合計	3,569,075	3,344,754
固定負債		
リース債務	2,136	6,568
繰延税金負債	24,074	5,721
退職給付引当金	35,980	27,454
賞与引当金	33,133	51,344
役員賞与引当金	19,867	39,959
資産除去債務	52,964	54,018
固定負債合計	168,153	185,065
負債合計	3,737,228	3,529,818
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,200,000	1,200,000
資本剰余金		
資本準備金	1,076,268	1,076,268
その他資本剰余金	1,342,567	1,342,567
資本剰余金合計	2,418,835	2,418,835
利益剰余金		
利益準備金	110,093	110,093
その他利益剰余金	6,716,911	8,631,177
別途積立金	1,600,000	1,600,000
繰越利益剰余金	5,116,911	7,031,177
利益剰余金合計	6,827,003	8,741,269
株主資本合計	10,445,839	12,360,104
評価・換算差額等		

その他有価証券評価差額金	28,922	2,546
評価・換算差額等合計	28,922	2,546
純資産合計	10,474,761	12,357,559
負債純資産合計	14,211,989	15,887,377

(2) 【損益計算書】

(単位：千円)

	第34期 (自平成26年4月 1日 至平成27年3月31日)	第35期 (自平成27年4月 1日 至平成28年3月31日)
営業収益		
委託者報酬	15,779,303	14,680,790
運用受託報酬	3,708,288	3,412,588
投資助言報酬	17,639	13,302
その他営業収益	386,569	562,617
営業収益合計	19,891,798	18,669,296
営業費用		
支払手数料	9,990,360	9,161,802
広告宣伝費	115,498	131,066
調査費	1,402,345	1,330,209
調査費	691,906	711,660
委託調査費	710,439	618,549
委託計算費	20,635	21,470
営業雑経費	168,609	207,548
通信費	42,520	48,788
印刷費	107,212	134,491
協会費	18,876	24,270
営業費用合計	11,697,447	10,852,095
一般管理費		
給料	2,779,891	2,923,866
役員報酬	124,594	205,916
給料・手当	2,183,550	2,220,350
賞与	462,670	470,236
役員賞与	9,077	27,364
交際費	14,961	35,249
旅費交通費	81,846	84,282
租税公課	57,342	77,090
不動産賃借料	167,818	176,671
賞与引当金繰入	163,625	196,629
役員賞与引当金繰入	33,625	75,417
退職給付費用	259,853	280,581
固定資産減価償却費	35,714	42,306
福利厚生費	363,438	385,845
諸経費	202,191	288,859

一般管理費合計	4,160,303		4,566,795
営業利益	4,034,048		3,250,406
営業外収益			
有価証券利息	11,954		9,839
有価証券売却益	1,605		46,524
受取利息	9		259
為替差益	1,538		-
雑収入	11,773		9,310
営業外収益合計	26,879		65,932
営業外費用			
先物取引評価損	16,014		487
支払利息	94		396
為替差損	-		14,639
雑損失	40		578
営業外費用合計	16,148		16,099
経常利益	4,044,779		3,300,239
特別損失			
固定資産除却損	*1	7,511	1,166
減損損失		-	*1
特別損失合計		7,511	13,259
税引前当期純利益	4,037,268		3,286,980
法人税、住民税及び事業税	951,382		1,145,638
法人税等調整額	77,219		22,924
法人税等合計	874,163		1,122,714
当期純利益	3,163,105		2,164,266

(3) 【株主資本等変動計算書】

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835

	株主資本				株主資本 合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	110,093	1,600,000	2,303,806	4,013,898	7,632,734
当期変動額					
剰余金の配当			350,000	350,000	350,000
当期純利益			3,163,105	3,163,105	3,163,105
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計			2,813,105	2,813,105	2,813,105
当期末残高	110,093	1,600,000	5,116,911	6,827,003	10,445,839

	評価・換算差額等			純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	7,190	17,220	10,030	7,642,764
当期変動額				
剰余金の配当				350,000
当期純利益				3,163,105
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	36,112	17,220	18,892	18,892
当期変動額合計	36,112	17,220	18,892	2,831,997
当期末残高	28,922	-	28,922	10,474,761

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

(単位:千円)

	株主資本			
	資本金	資本剰余金		
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計
当期首残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835
当期変動額				
剰余金の配当				
当期純利益				
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)				
当期変動額合計				
当期末残高	1,200,000	1,076,268	1,342,567	2,418,835

	株主資本				
	利益剰余金				株主資本 合計
	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計	
		別途積立金	繰越利益 剰余金		
当期首残高	110,093	1,600,000	5,116,911	6,827,003	10,445,839
当期変動額					
剰余金の配当			250,000	250,000	250,000
当期純利益			2,164,266	2,164,266	2,164,266
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)					
当期変動額合計			1,914,266	1,914,266	1,914,266
当期末残高	110,093	1,600,000	7,031,177	8,741,269	12,360,104

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額等 合計	
当期首残高	28,922	28,922	10,474,761
当期変動額			
剰余金の配当			250,000
当期純利益			2,164,266
株主資本以外の項目の当期変動額 (純額)	31,468	31,468	31,468
当期変動額合計	31,468	31,468	1,882,798
当期末残高	2,546	2,546	12,357,559

注記事項

(重要な会計方針)

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)を採用しております。

(2) 子会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(3) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

2. デリバティブ等の評価基準及び評価方法

(1) デリバティブ

時価法を採用しております。

(2) 金銭の信託

時価法を採用しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理しております。)

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定額法により償却しております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物 15年～18年

器具備品 4年～15年

(2) 無形固定資産

定額法により償却しております。

自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務(直近の年金財政計算上の責任準備金をもって退職給付債務とする簡便法)及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

(3) 賞与引当金

従業員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

(4) 役員賞与引当金

役員に対する賞与の支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に帰属する額を計上しております。なお、ある条件を満たした者に対して、一定金額を繰延支給する制度が導入されております。当該賞与は数年間に分割支給されるため、1年を超えて支払われる部分については固定負債に計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

アムンディ・ジャパンホールディング株式会社を連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

(未適用の会計基準等に関する注記)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日）

(1) 概要

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」は、日本公認会計士協会における税効果会計に関する会計上の実務指針及び監査上の実務指針（会計処理に関する部分）を企業会計基準委員会に移管するに際して、企業会計基準委員会が、当該実務指針のうち主に日本公認会計士協会監査委員会報告第66号「繰延税金資産の回収可能性の判断に関する監査上の取扱い」において定められている繰延税金資産の回収可能性に関する指針について、企業を5つに分類し、当該分類に応じて繰延税金資産の計上額を見積もるという取扱いの枠組みを基本的に踏襲した上で、分類の要件及び繰延税金資産の計上額の取扱いの一部について必要な見直しを行ったもので、繰延税金資産の回収可能性について、「税効果会計に関する会計基準」（企業会計審議会）を適用する際の指針を定めたものであります。

(2) 適用予定日

平成28年4月1日以降開始する事業年度の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」の適用による財務諸表に与える影響はありません。

(貸借対照表関係)

*1各勘定科目に含まれる関係会社に対するものは以下のとおりであります。

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
未収運用受託報酬	29,378 千円	27,461 千円
未収収益	74,065 千円	108,242 千円
その他未払金	106,207 千円	69,245 千円
関係会社未払金	616,896 千円	562,135 千円

*2有形固定資産の減価償却累計額は以下のとおりであります。

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
建物	68,245 千円	70,879 千円
器具備品費	169,289 千円	189,524 千円

(損益計算書関係)

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

*1特別損失に含まれる固定資産除却損

固定資産の除却損は、本社オフィスで使用していた固定資産の除却であります。

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

*1特別損失に含まれる減損損失

当事業年度において、当社は以下の資産について減損損失を計上いたしました。

場所	用途	種類
日比谷ダイビル 18F, 21F会議室	処分予定資産	建物
		器具備品

当社は、資産運用会社であり、基本的に全資産が一体となってキャッシュフローを生み出す単位として取り扱っておりません。

当社は、東京都千代田区に所在する日比谷ダイビルに本社事務所を賃借しておりますが、事務所の18階借室を平成28年6月20日に返還することとなりました。その為、当初の予定より早期に資産を除却することが予定され、当該将来の使用が見込まれないものについては処分予定資産としてグルーピングを行っております。日比谷ダイビル事務所18階借室および21階会議室部分の建物と器具備品については、処分予定時における残存帳簿価格から直接減額し、当該減少額を減損損失として特別損失に計上いたしました。

(減損損失の金額)	
建 物	8,068千円
器具備品	4,026千円
合 計	12,093千円

(株主資本等変動計算書関係)

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

2. 配当に関する事項

(1)配当金支払額

平成26年6月18日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	350,000千円
(ロ) 1株当たり配当額	145.83円
(ハ) 基準日	平成26年3月31日
(ニ) 効力発生日	平成26年6月18日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成27年6月16日開催の定時株主総会において、次の議案を決議することを予定しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ) 配当金の総額	250,000千円
(ロ) 配当の原資	利益剰余金
(ハ) 1株当たり配当額	104.17円
(二) 基準日	平成27年3月31日
(ホ) 効力発生日	平成27年6月16日

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数に関する事項

株式の種類	当事業年度期首 (千株)	増加 (千株)	減少 (千株)	当事業年度末 (千株)
普通株式	2,400	-	-	2,400

2. 配当に関する事項

(1)配当金支払額

平成27年6月16日の定時株主総会において、次のとおり決議しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	250,000千円
(ロ)	1株当たり配当額	104.17円
(ハ)	基準日	平成27年3月31日
(ニ)	効力発生日	平成27年6月16日

(2)基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

平成28年6月15日開催の定時株主総会において、次の議案を決議することを予定しております。

・普通株式の配当に関する事項

(イ)	配当金の総額	350,000千円
(ロ)	配当の原資	利益剰余金
(ハ)	1株当たり配当額	145.83円
(ニ)	基準日	平成28年3月31日
(ホ)	効力発生日	平成28年6月15日

(リース取引関係)

ファイナンス・リース取引

所有権移転外ファイナンス・リース取引

(1)リース資産の内容

有形固定資産
器具備品

(2)リース資産の減価償却方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1)金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については、短期的な預金もしくは国債等に限定しております。資金の調達については、銀行等金融機関から借入はありません。

また、当社は、投資信託の運用を業として行っており、自社が運用する投資信託の商品性維持等を目的として、当該投資信託を投資有価証券として、あるいは特定金銭信託を通じ保有しております。

直接または特定金銭信託を通じ行っているデリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2)金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

未収委託者報酬及び未収運用受託報酬は、相手先の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては、相手先ごとの残高管理を行うとともに、延滞債権が発生した場合には管理部門役職者が顧客と直接交渉する体制としております。有価証券及び投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されておりますが、運用先の信用リスクを極小化することを優先するため、主に国債もしくはこれに準ずるものに限定し、定期的に時価を把握し市場価格変動に留意しております。また、特定金銭信託を通じ保有している投資信託につきましては、為替変動リスクや価格変動リスクに晒されておりますが、その大部分については為替予約、株価指数先物、債券先物、スワップ取引などのデリバティブ取引によりヘッジしております。未払手数料は、支払期日に支払いを実行できなくなる流動性リスクに晒されておりますが、手許流動性を維持することにより管理しております。

デリバティブ取引は株価指数先物取引及び、その他の指数先物取引を行っております。当社は、事業活動において存在するリスクを的確に把握し、リスク管理を適切に実行すべく、リスク管理基本規程を設けております。有価証券を含む投資商品の投資については「シードマネーガイドライン」及び「資本剰余金及び営業キャッシュに係る投資ガイドライン」の規程に基づき決定され、担当部署において管理しております。

デリバティブ取引については、組織的な管理体制により、毎日ポジション並びに評価額及び評価損益の管理を行っております。

(3)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては、一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件等によった場合、当該価額が異なることもあります。また、デリバティブ取引に関する契約額等は、あくまでもデリバティブ取引における名目的な契約額であり、当該金額自体がデリバティブ取引のリスクの大きさを示すものではありません。

2. 金融商品の時価等に関する事項

貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（注2）参照）。

第34期(平成27年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金・預金	4,006,104	4,006,104	-
(2)未収委託者報酬	2,133,487	2,133,487	-
(3)未収運用受託報酬	1,220,234	1,220,234	-
(4)金銭の信託	1,314,154	1,314,154	-
(5)有価証券及び投資有価証券			
満期保有目的の債券	2,428,106	2,449,590	21,484
其他有価証券	2,092,291	2,092,291	-
資産計	13,194,375	13,215,860	21,484
(1)未払手数料	1,258,595	1,258,595	-
負債計	1,258,595	1,258,595	-
デリバティブ取引(*1)	(2,257)	(2,257)	-
デリバティブ取引計	(2,257)	(2,257)	-

(*1)デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、()で示しております。

第35期(平成28年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1)現金・預金	9,636,443	9,636,443	-
(2)未収委託者報酬	2,292,951	2,292,951	-
(3)未収運用受託報酬	1,113,454	1,113,454	-
(4)金銭の信託	907,640	907,640	-
(5)有価証券及び投資有価証券			
其他有価証券	853,648	853,648	-
資産計	14,804,136	14,804,136	-
(1)未払手数料	1,263,382	1,263,382	-
負債計	1,263,382	1,263,382	-

(注1)金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金・預金、(2) 未収委託者報酬、及び(3) 未収運用受託報酬

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 金銭の信託

信託財産は、主として投資信託、デリバティブ取引、その他の資産（コールローン・委託証拠金等）で構成されております。これらの時価について投資信託については基準価格、デリバティブ取引に関しては、上場デリバティブ取引は取引所の価格、為替予約取引は先物為替相場、店頭デリバティブ取引は取引先金融機関から提示された価格等によっております。また、その他の資産については短期間で決済されるため、時価は帳簿価額とほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(5) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、国債及び投資信託受益証券は、証券会社等からの時価情報によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項（有価証券関係）をご参照下さい。

負債

(1) 未払手数料

短期間で決済されるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

デリバティブ取引

注記事項（デリバティブ取引関係）をご参照ください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

下記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、上表には含めておりません。

関係会社株式は、当社の100%子会社であるワイアイシーエム（デラウエア）社の株式です。

（単位：千円）

区分	第34期(平成27年3月31日)	第35期(平成28年3月31日)
	貸借対照表計上額	貸借対照表計上額
関係会社株式	84,560	84,560

(注3) 金銭債権及び満期がある有価証券の決算日後の償還予定額

第34期(平成27年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	4,006,104	-	-	-
未収委託者報酬	2,133,487	-	-	-
未収運用受託報酬	1,220,234	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
満期保有目的の債券	-	700,000	1,650,000	-
その他の有価証券のうち 満期のあるもの	360,000	720,000	-	-
合計	7,719,825	1,420,000	1,650,000	-

第35期(平成28年3月31日)

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金・預金	9,636,443	-	-	-
未収委託者報酬	2,292,951	-	-	-
未収運用受託報酬	1,113,454	-	-	-
合計	13,042,848	-	-	-

(有価証券関係)

1. 満期保有目的の債券

第34期(平成27年3月31日)

	貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
時価が貸借対照表計上額を超えるもの	2,428,106	2,449,590	21,484
時価が貸借対照表計上額を超えないもの	-	-	-
合計	2,428,106	2,449,590	21,484

第35期(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

2. 子会社株式

子会社株式（当事業年度の貸借対照表計上額 84,560千円、前事業年度の貸借対照表計上額 84,560千円）は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

3. その他有価証券

第34期(平成27年3月31日)

区分	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	1,099,159	1,106,712	7,553
	(3) その他(注)	1,448,129	1,486,221	38,091
	小計	2,547,288	2,592,933	45,645
貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	814,219	813,512	706
	小計	814,219	813,512	706
合計		3,361,507	3,406,445	44,938

(注) 投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

第35期(平成28年3月31日)

区分	種類	取得原価 (千円)	貸借対照表計上額 (千円)	差額 (千円)
貸借対照表計上額が取得 原価を超えるもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	821,379	827,884	6,505
	小計	821,379	827,884	6,505

貸借対照表計上額が取得 原価を超えないもの	(1) 株式	-	-	-
	(2) 債券	-	-	-
	(3) その他(注)	943,591	933,405	10,187
	小計	943,591	933,405	10,187
合計		1,764,970	1,761,288	3,682

(注)投資信託受益証券及び金銭の信託であります。

4. 事業年度中に売却した満期保有目的の債券

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

種類	売却原価 (千円)	売却額 (千円)	売却損益 (千円)
国債	2,417,495	2,448,019	30,524

売却の理由

当社の親会社であるクレディ・アグリコル エス・アーは銀行業を営んでおり、当事業年度中に適用されたボルカールールをグループとして遵守する必要があるため、グループの方針に基づき売却したためであります。

5. 事業年度中に売却したその他有価証券

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
投資信託	375,296	-	26,765

(注) 損益計算書上、ヘッジ手段から生じる決済及び評価益(28,370千円)と相殺して、有価証券売却益(1,605千円)として表示しております。

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

種類	売却額 (千円)	売却益の合計額 (千円)	売却損の合計額 (千円)
金銭の信託	380,000	-	4,343
投資信託	159,071	16,258	657
国債	735,437	4,742	-

(デリバティブ取引関係)

1. ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

株式関連

第34期(平成27年3月31日)

区分	取引の種類	契約額等 (千円)	契約額等のうち 1年超 (千円)	時価 (千円)	評価損益 (千円)
市場取引	その他の指数先物取引				
	売建	110,868	-	113,125	2,257
	東証REIT指数先物				
合計		110,868	-	113,125	2,257

(注) 時価の算定方法

取引先金融機関等から提示された価格等に基づいております。

第35期(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

2. ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

第34期(平成27年3月31日)

該当事項はありません。

第35期(平成28年3月31日)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型、非積立型の確定給付制度及び確定拠出制度を採用しております。確定給付企業年金制度（積立型制度であります。また、複数事業主制度であります。年金資産の額は合理的に算定しています。）では、給与と勤務期間に基づいた一時金又は年金を支給しております。退職一時金制度（非積立型制度ではありません。）では、退職給付として、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。

なお、当社が有する確定給付企業年金制度及び退職一時金制度は、簡便法により退職給付引当金及び退職給付費用を計算しております。

2. 簡便法を適用した確定給付制度

(1)簡便法を適用した制度の、退職給付引当金の期首残高と期末残高の調整表

(千円)

	第34期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	第35期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
退職給付引当金の期首残高	59,347	35,980
退職給付費用	214,893	236,781
退職給付の支払額	103,535	111,315
制度への拠出額	134,725	133,992
退職給付引当金の期末残高	35,980	27,454

(2)退職給付債務及び年金資産の期末残高と貸借対照表に計上された退職給付引当金の調整表

(千円)

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
積立型制度の退職給付債務	548,995	639,716
年金資産	519,455	620,081
会計基準変更差異の未処理額	-	-
	29,540	19,634
非積立型制度の退職給付債務	6,440	7,820
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	35,980	27,454
退職給付に係る負債	35,980	27,454
貸借対照表に計上された負債と資産の純額	35,980	27,454

(3)退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用

前事業年度 214,893千円

当事業年度 236,781千円

3. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額 前事業年度44,960千円、当事業年度43,800千円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第34期 (平成27年3月31日)	第35期 (平成28年3月31日)
繰延税金資産		
前受収益否認額	11,373 千円	890 千円
未払費用否認額	54,530 千円	74,532 千円
繰延資産償却額	- 千円	2,264 千円
未払事業税	68,052 千円	48,609 千円
賞与引当金等損金算入限度超過額	58,178 千円	70,905 千円
退職給付引当金損金算入限度超過額	11,636 千円	8,472 千円
減価償却資産	5,401 千円	4,637 千円
資産除去債務	17,128 千円	16,670 千円
減損損失否認額	- 千円	3,732 千円
その他有価証券評価差額金	- 千円	19,346 千円
その他	9,369 千円	9,558 千円
繰延税金資産小計	235,667 千円	259,615 千円
評価性引当額	54,914 千円	57,138 千円
繰延税金資産合計	180,753 千円	202,477 千円
繰延税金負債		
資産除去債務会計基準適用に伴う有形 固定資産計上額	8,058 千円	5,721 千円
その他有価証券評価差額金	16,016 千円	- 千円
繰延税金負債合計	24,074 千円	5,721 千円
繰延税金資産の純額	156,679 千円	196,756 千円

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

第34期(平成27年3月31日)

法定実効税率	35.6%
(調整)	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.6%
住民税均等割等	0.1%
連結納税制度適用による影響	-
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.4%
評価性引当額の減少	13.9%
その他	0.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.7%

第35期(平成28年3月31日)

法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成27年法律第9号）が平成27年3月31日に公布されたことに伴い、当事業年度の繰延税金資産および繰延税金負債の計算（ただし、平成27年4月1日以降解消されるものに限る）に使用した法定実効税率は、前事業年度の35.6%から、回収または支払が見込まれる期間が平成27年4月1日から平成28年3月31日までのものは33.1%、平成28年4月1日以降のものについては32.3%にそれぞれ変更されております。

この税率変更による繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)及び法人税等調整額への影響は軽微です。

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

「所得税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第15号）及び「地方税法等の一部を改正する法律」（平成28年法律第13号）が平成28年3月29日に国会で成立し、平成28年4月1日以降に開始する事業年度から法人税率等の引き下げ等が行われることとなりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来の33.1%から、平成28年4月1日に開始する事業年度に解消が見込まれる一時差異については30.9%となります。この税率変更による繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)及び法人税等調整額への影響は軽微です。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち貸借対照表に計上しているもの

(1) 資産除去債務の概要

当社は、本社オフィスに関して、建物所有者との間で貸室賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復する義務を有しているため、契約上の義務に関して資産除去債務を計上しております。

(2) 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を17年間(建物の減価償却期間)と見積り、割引率は当該減価償却期間に見合う国債の流通利回りを使用して、資産除去債務の金額を計算しております。

(3) 事業年度における当該資産除去債務の総額の増減

	第34期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	第35期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
期首残高	51,930 千円	52,964 千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	-	-
時の経過による調整額	1,034 千円	1,054 千円
資産除去債務の履行による減少額	-	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	52,964 千円	54,018 千円

(セグメント情報等)

(セグメント情報)

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)及び第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

当社は「投資信託及び投資法人に関する法律」に定める投資信託委託会社であり証券投資信託の設定を行うとともに「金融商品取引法」に定める金融商品取引業者としてその運用(投資運用業)を行っております。また「金融商品取引法」に定める投資助言・代理業を行っております。当社は、投資運用業及び投資助言・代理業にこれらの附帯業務を集約した単一セグメントを報告セグメントとしております。従いまして、開示対象となるセグメントはありませんので、記載を省略しております。

(関連情報)

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位:千円)

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
16,913,125	2,176,269	802,404	19,891,798

(注)営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(トルコリラコース)	3,382,436	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(豪ドルコース)	2,482,477	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 営業収益

(単位:千円)

日本	ルクセンブルグ	その他	合計
15,997,749	1,783,805	887,742	18,669,296

(注)営業収益は顧客の所在地を基準とし、国ごとに分類しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、地域ごとの有形固定資産の記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位:千円)

顧客の名称	委託者報酬	関連するセグメント名
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(トルコリラコース)	2,800,896	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務
アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド(豪ドルコース)	2,383,231	投資運用業及び投資助言・代理業並びにこれらの附帯業務

(報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報)

該当事項はありません。

(報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報)

該当事項はありません。

(関連当事者情報)

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1)財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 の所有 (被所 有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	アムンディ・ エスアー	フランス パリ市	596,262 (千ユーロ)	投資 顧問業	(被所有) 間接 100%	なし	投資信託、 投資顧問 契約の再 委任等	運用受託報酬*1	117,303	未収運用 受託報酬	29,378
								情報提供、コン サルティング料 (その他営業収 益)*1	275,356	未収収益	74,065
								委託調査費等 の支払*2	411,856	未払金	106,207
親会社	アムンディ・ ジャパンホ ールディン グ株式会社	東京都 千代田区	5,400,000 (千円)	有価証券 の保有	(被所有) 直接 100%	なし	連結納税 親会社	法人税等の支払	616,896	関係会社 未払金	616,896

(注)

1.取引条件及び取引条件の決定方針等

*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

*2委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2)兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 の所有 (被所 有)割合	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
兄弟会社	アムンディ・ ルクセン ブルグ	ルクセン ブルグ	153,419 (千ユーロ)	投資 顧問業	なし	なし	運用再委託	運用受託報酬*1	2,017,736	未収運用 受託報酬	554,086
								委託者報酬*1	147,501	未収委託 者報酬	13,245
								投資助言報酬*1	11,032	未収投資 助言報酬	2,979

(注)

1.取引条件及び取引条件の決定方針等

*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

2.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

アムンディ・ジャパン ホールディング株式会社(非上場)

アムンディ・エス・アー(非上場)

アムンディ・グループ エス・アー(非上場)

クレディ・アグリコル エス・アー(ユーロネクスト パリに上場)

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

1. 関連当事者との取引

(1)財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 の所有 (被所有 割合)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
親会社	アムンディ・アセットマネジメント	フランス パリ市	596,262 (千ユーロ)	投資 顧問業	(被所有) 間接100%	なし	投資信託、 投資顧問契 約の再 委任等	運用受託報酬*1	116,857	未収運用 受託報酬	27,461
								情報提供、コン サルティング料 (その他営業収 益)*1	407,127	未収収益	108,242
								委託調査費等 の支払*2	340,268	未払金	69,245
親会社	アムンディ・ ジャパンホ ールディン グ株式会社	東京都 千代田区	5,400,000 (千円)	有価証券 の保有	(被所有) 直接100%	なし	連結納税 親会社	法人税等の支払	562,135	関係会社 未払金	562,135

(注)

1.取引条件及び取引条件の決定方針等

*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

*2委託調査費等の支払については、ファンドの運用資産の割合に応じた一定の比率により決定しております。

2.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

3.アムンディ・エス・アーは、平成27年11月12日よりアムンディ・アセットマネジメントに名称を変更しております。

(2)兄弟会社等

種類	会社等の名称	所在地	資本金 又は 出資金	事業の 内容又 は職業	議決権 の所有 (被所有 割合)	関係内容		取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
						役員の 兼任等	事業上 の関係				
兄弟会社	アムンディ・ ルクセン ブルグ	ルクセン ブルグ	153,419 (千ユーロ)	投資 顧問業	なし	なし	運用再委託	運用受託報酬*1	1,732,958	未収運用 受託報酬	339,067
								委託者報酬*1	43,625	未収委託 者報酬	43,625
								投資助言報酬*1	8,054	未収投資 助言報酬	1,796

(注)

1.取引条件及び取引条件の決定方針等

*1各報酬等について、当該各契約に基づいて決定しております。

2.上記の金額には消費税等は含まれておりません。

2. 親会社に関する注記

親会社情報

アムンディ・ジャパン ホールディング株式会社(非上場)

アムンディ・アセットマネジメント(非上場)

アムンディ(ユーロネクスト パリに上場)

クレディ・アグリコル エス・アー(ユーロネクスト パリに上場)

(1株当たり情報)

	第34期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	第35期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
1株当たり純資産額	4,364.48 円	5,148.98 円
1株当たり当期純利益金額	1,317.96 円	901.78 円

なお、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載していません。

1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下の通りであります。

	第34期 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)	第35期 (自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)
当期純利益(千円)	3,163,105	2,164,266
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	3,163,105	2,164,266
期中平均株式数(千株)	2,400	2,400

(重要な後発事象)

第34期(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

該当事項はありません。

第35期(自平成27年4月1日 至平成28年3月31日)

(企業結合等関係)

当社は、アムンディ・ジャパン証券株式会社と平成28年2月10日に合併契約書を締結し、平成28年2月25日開催の臨時株主総会において同契約書の承認を得ました。この契約書に基づき、当社は平成28年4月1日付けでアムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併致しました。

1.合併の理由

機関投資家向け業務の効率化および投資信託事業のラップ等新規市場の開拓

2.合併の概要

(1)合併する相手先の名称

アムンディ・ジャパン証券株式会社

(2)合併の方法

当社を存続会社とし、アムンディ・ジャパン証券株式会社は解散する。

(3)合併後の会社の名称

アムンディ・ジャパン株式会社と称する。

(4)合併に際して発行する株式

本合併は、無対価とし、当社は、合併に際して株式を発行しない。

(5)資本金及び準備金等

本合併は、無対価であるため、合併により当社の資本金、資本準備金は増加せず、資本金・資本準備金以外の株主資本については会社計算規則に従う。

(6)効力発生日

合併の効力発生日は、平成28年4月1日とする。

(7)財産の引継ぎ

アムンディ・ジャパン証券株式会社は、平成28年3月31日現在の貸借対照表を基礎とし、一切の財産、負債及び権利義務を合併の効力発生日において当社に引継ぐ。

(8)合併交付金

当社は、合併の効力発生日現在の株主名簿に記載された株主に対して、合併交付金は支払わない。

(9)合併する相手会社の規模

平成28年3月31日現在

営業収益	658,975千円
当期純利益	296,363千円
総資産額	1,275,553千円
総負債額	144,655千円
純資産額	1,130,898千円

第2【その他の関係法人の概況】

1【名称、資本金の額及び事業の内容】

原届出書の「第三部 委託会社等の情報 第2 その他の関係法人の概況 1 名称、資本金の額及び事業の内容」につきましては次の内容に更新・訂正されます。

<更新・訂正後>

(1) 受託会社

名 称	資本金の額 (平成28年3月末日現在)	事 業 の 内 容
株式会社りそな銀行	279,928百万円	銀行法に基づき銀行業を営むとともに、「金融機関の信託業務の兼営等に関する法律」に基づき信託業務を営んでいます。

(2) 販売会社

名 称	資本金の額 (平成28年3月末日現在)	事 業 の 内 容
野村証券株式会社	10,000百万円	金融商品取引法に定める第一種金融商品取引業を営んでいます。
株式会社SBI証券	47,937百万円	
ワイエム証券株式会社	1,270百万円	

2【関係業務の概要】

(1) 受託会社

<訂正前>

(略)

<再信託受託会社の概要>

- ・名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・資本金の額 : 51,000百万円(平成27年9月末日現在)

(略)

<訂正後>

(略)

<再信託受託会社の概要>

- ・名称 : 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社
- ・資本金の額 : 51,000百万円(平成28年3月末日現在)

(略)

独立監査人の監査報告書

平成28年6月10日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「委託会社等の経理状況」に掲げられているアムンディ・ジャパン株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの第35期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・ジャパン株式会社の平成28年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成28年4月1日にアムンディ・ジャパン証券株式会社を吸収合併した。当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ユーロコース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（ブラジルリアルコース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（資源国通貨コース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（円コース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会 御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（豪ドルコース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（トルコリラコース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（米ドルコース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状態及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[次へ](#)

独立監査人の監査報告書

平成28年5月18日

アムンディ・ジャパン株式会社
取締役会御中

PwCあらた監査法人

指定社員 公認会計士 鶴田 光夫
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「ファンドの経理状況」に掲げられているアムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞の平成28年1月14日から平成28年4月8日までの計算期間の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益及び剰余金計算書、注記表並びに附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、アムンディ・欧州ハイ・イールド債券ファンド（メキシコペソコース）＜年2回決算型＞の平成28年4月8日現在の信託財産の状況及び同日をもって終了する計算期間の損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

アムンディ・ジャパン株式会社及びファンドと当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

（注）1.上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。

2.XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

[当期委託会社監査報告書へ](#)